

難病患者の生涯学習

2018年10月3日
日本難病・疾病団体協議会

目的： 難病患者が地域で尊厳を持って生きることのできる環境づくりをめざし、共に学び合うしくみをつくる

1. 患者自身の目標を叶えるために

目標：自分の病気を正しく知り、病気と立ち向かう心を持つ

治療に前向きになる

同じ病気を持つ患者同士との交流、意見交換をする

そのために

学びや支援体制の充実と交流の場を確保する

事例：①特別支援学校での卒業生への相談体制

// 〆の開放による居場所づくり（放課後子ども教室の大人版）

// 就職サポート

②職業訓練校でのメニューの拡大

③就労や病気とともに生きていく社会生活を意識した学校教育

・自分の病状やできないこと、手伝ってほしいことを、周囲の人たちに伝え理解を得る力の醸成

2. 難病患者への理解を広めるための環境整備

対象者：①慢性疾患や難病者を抱える家族、高齢、障害者を抱える家族、

②自分の健康を考える人たち

実施主体：行政や企業等のみでなく、患者団体等当事者を含む団体（含委託）

内容：健康大学、市民大学、講演会等

場所：病院、介護施設、保健所、PTAの会合

共通するテーマ：

①健康保険のしくみ

②介護保険を知る

③健康の自己管理：健康手帳の配布

④メタボ、ロコモ対策

⑤病院へのかかり方

3. 在学中の生涯学習

インクルーシブ教育の実践を前提として

障害児と一緒に運営される放課後子どもプラン（放課後こども教室及び学童保育所）

放課後子どもプランと放課後等児童ディとの役割分担と連携